

令和2年度  
人権委員会活動報告集



愛媛県立大洲農業高等学校  
人権委員会

# 目 次

1	人権委員会の組織および活動内容・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	活動経過の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	人権教育講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4	人権委員会の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
5	人権に関する意識調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	17
6	人権作文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
7	人権教育集会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24

# 1 人権委員会の組織および活動内容

## (1) 活動方針

人権・同和教育推進を中核にすえた、自主的な人権啓発活動を行う。

## (2) 構成委員

専門委員 6クラス×2名=12名

委員長、副委員長は専門委員の中からそれぞれ1名選出する。

	1 年	2 年	3 年
1 組	片上 杏珠 神田 孝汰	谷岡 美彦 向井 寛人	清水 力斗 山西 祐也
2 組	音地 博美 高岡 花歩	片岡 紗菜 坂本 莉菜	尾中 しずく 森本 誠

〈委員長〉 尾中 しずく

〈副委員長〉 森本 誠

〈顧問〉 尾田 明充

## (3) 活動内容

月	内 容	月	内 容	月	内 容
4	役員選出 年間活動計画作成 人権標語募集	8	大洲市高校生人権フィールドワーク参加	12	人権教育集会準備及びリハーサル 人権教育集会運営
5	「人権だより206号」発行 人権標語優秀作品選考	9	人権ポスター優秀作品選考 人権・同和教育ホームルーム活動準備、運営	1	「人権だより210号」発行 人権・同和教育ホームルーム活動準備、運営 人権に関する意識調査集計
6	人権啓発DVD視聴会① 人権・同和教育ホームルーム活動準備、運営	10	「人権だより208号」発行 大洲市高校生人権フィールドワークの参加報告書作成 人権教育講演会準備、運営	2	人権啓発DVD視聴会③ 「人権委員会活動報告集」編集 「人権だより211号」発行
7	「人権だより207号」発行 人権作文・人権ポスター募集	11	人権啓発DVD視聴会② 人権教育集会準備 「人権だより209号」発行	3	一年間の反省 「人権委員会活動報告集」製本、発行 愛媛県友の集い参加 大洲市人権学習報告会参加

※ 掲示板『こころと人権のコーナー』の掲示は適宜行う。

## 2 活動経過の概要

月 日	活 動 内 容	備 考
4月14日 4月15日 5月1日 5月26日 6月2日 6月6日 6月14日 7月10日 7月20日	役員選出、年間活動計画作成 人権標語募集 「人権だより206号」発行 「人権標語」優秀作品選考会 人権啓発DVD視聴会① 1学期人権・同和教育ホームルーム活動 研究授業 1学期人権・同和教育ホームルーム活動 「人権だより207号」発行 「人権ポスター」・「人権作文」募集	委員による選考 委員による運営 委員による運営
8月上旬 8月上旬 8月中旬 8月29日	人権委員会夏季研修会（内子町うちこ福祉館）中止 大洲市大洲隣保館人権セミナー（大洲隣保館）中止 全国高校生集会（徳島県）中止 大洲市高校生人権フィールドワーク（香川県）	委員4名が参加
9月9日 9月24日 9月下旬 10月14日 10月21日 11月4日 11月16日 12月12日 12月17日	「人権ポスター」優秀作品選考会 2学期人権・同和教育ホームルーム活動 おおすりんぼかんのつどい（大洲隣保館）中止 「人権だより208号」発行 人権教育講演会 人権啓発DVD視聴会② 「人権だより209号」発行 いじめSTOP！愛顔あふれるえひめフォーラム」中止 人権教育集会	委員による選考 委員による運営 委員による運営 委員による運営
1月14日 1月15日 1月18日 1月22日 1月下旬 2月8日 2月28日 3月6日 3月16日 3月19日 3月22日	「人権だより210号」発行 大洲人権擁護委員による「デートDVに関する座談会」（3年） 人権に関する意識調査実施 3学期人権・同和教育ホームルーム活動 人権に関する意識調査集計 人権啓発DVD視聴会③ 「人権だより211号」発行 愛媛県友の集い（大洲隣保館） 「人権委員会活動報告集」製本作業 大洲市人権学習報告会（肱北公民館） 「人権委員会活動報告集」発行	委員による運営 委員による集計 委員による運営 委員3名が参加 委員5名が参加

### 3 人権教育講演会

講 師： 繁樹 義一先生  
演 題： 「いのちの根っこにある人権」 ～ことほぎの心～  
日 時： 10月21日（水）  
場 所： 本校体育館



今年度は、大洲高校の繁樹義一先生にお越しいただき、「いのちの根っこにある人権」～ことほぎの心～と題して、人権コンサートを実施していただきました。

今日は、皆さんが、「人権の原点について思いをめぐらしてほしい、人間の自由と尊厳と、人間らしく生きることについてみなさんのみずみずしい感性で、『人間として本当に大切なこと、本当に恥ずかしいことは何だろうか?』と自分に問いかけていただくきっかけになれば」と話しておられました。

以下は生徒の感想です。

- ★一番大事な事は、自分自身を大切にすることだと教えていただいたので、寿命が尽きるまで楽しい人生を、一度きりの人生をしっかりと楽しみたいと思います。（1年生男子）
- ★一番心に残った言葉は、「100人中、10人は自分のことを嫌い、80人は自分に無関心。だけど残りの10人は自分のことを好いてくれる、大切に思ってくれている人。だから、100人全員に好かれようとしなくてもいい。自分のことを大切に思ってくれている10人の人たちのために生きてほしい。」です。私は、周りの人みんなに好かれたいという気持ちがありました。ですが、先生の言葉を聞いて、自分を大切に思ってくれている人たちのために、自分の自由・未来のために生きて行こうと思いました。（1年生女子）
- ★人権に関する講演会や授業は、暗く重い話題が多かったが、今回は優しい語りと歌声で、身近な人権問題について講演していただき、分かりやすかったです。（1年生女子）
- ★先生の講話を聞いて、自分が今生きているということをもっと誇りに思って、自分らしく生きていきたいと強く思いました。（2年生女子）
- ★先生の言葉は一つ一つが非常に温かくて、私の心に染みしました。今日たくさんの歌を聴かせてもらい、また温かい言葉をいくつも聞き、心が温かくなりました。（2年生女子）
- ★歌を交えながら、とても分かりやすく人権問題を学ぶことができました。歌もすごく上手だし、歌詞もよく、心に染みる歌ばかりで、涙が出そうでした。すべてが優しいので、私まで優しい気持ちになりました。（2年生女子）





★このように人権について考える時間は、とても大切だと思いました。しかし、それで終わるのではなく、自分たちの今後の生活でどのような変化があるのか、それが大切だと思います。より良いクラスを作っていくためにも、一人一人が人権意識を持って生活することがとても大切だと思います。  
(2年生男子)



★全体を通して、「助け合おう」というよりも「一緒に生きて行こう」という思いが感じられました。歌の歌詞にも「手と手を取り合おう」とか「一緒に歩む」と言う言葉はあまりなく、「側にいる」とか「のんびり生きよう」というあくまでも助ける前提で、自分たちがどう生きて行くのか、関わり合うのか考えさせられました。(3年生男子)

★これまで何回も、人権について話しを聞いてきましたが、ここまで人権について考えさせられ、心にジーンときたのは初めてでした。先生の話は、なぜか心の奥深くまで問いかけてくる感じがして、話しに集中させられる内容でした。(3年生女子)

## 《人権委員長のあいさつ》

人権について考える時、どうしても遠い存在だと考えてしまう人が多いと思います。しかし、今回は人権コンサートという形で、歌を通して人権問題を身近なものとしてお話していただきました。

私は、今回の集会を通して人権問題について無関心ではなく、関心や興味を持って、積極的に学ぶことで救われる人がたくさんいるのではないかと思うことができました。まず第一歩として、私のことを大切にしてくれ、私を好いてくれる人を、私も大切にしていこうと思います。本日は本当にありがとうございました。



繁樹先生は非常に多忙な方で、スケジュール帳は1年先ぐらいまで、びっしり予定が入っています。今回の講演会は、1年以上も前から先生にお願いをし、予約をしておりました。そして、ついに念願叶って、本日実施することができました。普段の講演会では味わえない幸福感と満足感が得られたのではないかと思います。

皆さんの感想の中には、「人のことを思う大切さを知ることができた。」「自分が差別や人権問題について興味や感心を持たないと解決することはできないと思った。」「しんどいことを乗り越えた分、楽しいこと、幸せなことも待っていると信じて、辛いことも乗り越えていこうと思った。」など、前向きな感想が多数見られました。今まで聞いた講演会の中で、一番印象に残ったという感想も多くあり、人権コンサートを実施して、本当に良かったと思っています。

「命を大切に、自分を大切に、人を大切に」という先生の強いメッセージが、きっと皆さんに届いたのではないかと思います。

## 4 人権委員会の活動報告

### (1) 校内人権標語選考会



5月26日(火)に校内で「人権標語」の優秀作品の選考会を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響で4月中旬から5月中旬頃まで休校だったために、1ヶ月遅れとなってしまいました。各クラスで優秀な作品を8点ずつ選出し、全48点の中から投票で9作品を選出しました。すばらしい作品ばかりで、選ぶのに苦労しました。選ばれた優秀作品は、毎月「今月の人権標語」として各クラスと校内の掲示板に掲示されました。

### (2) 大洲市高校生人権フィールドワーク



私たち3年生は、去る8月29日(土)に実施された「大洲市高校生人権フィールドワーク」に参加しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「全国高校生集会」が中止となりました。その代わりに、大洲市で高校生人権フィールドワークを企画していただき、香川県の方へ研修に行きました。

大洲市内4校の高校の人権委員17名と引率の先生方、大洲市役所の人権啓発課の方など、総勢25名が参加しました。日帰りのバスツアーではありましたが、今までに経験したことのない有意義な時間を過ごすことができました。その研修の内容や感想等について、これから報告したいと思います。



新型コロナウイルス感染症予防のため、バスに乗り込む前には全員が検温を行いました。手指の消毒はもちろん、食事の除いて、終始マスクの着用を徹底しました。それに、バスの中では座席の間隔を空けるなど、感染症対策はバッチリ行いました。また、シートベルトもがっちり締めるといった、安全対策も怠りませんでした。



行きのバスの中では、まず最近起こった人権問題について、愛媛県人権対策協議会大洲支部の木元さんからお話がありました。1つ目は、フジテレビの番組にレギュラー出演している中で、誹謗中傷がひどく自殺に至った事件がありました。皆さん、亡くなったのはご存じでしょうか。女子プロレスラーの木村花(きむら はな)さんです。彼女はまだ21歳くらいで、これからの女子プロレス界を背負っていく逸材だったことに間違いありません。いろんな書き込みをした人たちは、多分彼女は強い人だから大丈夫だろう、という心理があったのかもしれない



お話の後、人権啓発DVDを鑑賞しました。タイトルは「ありのままに生きる」～坂田愛梨・瑠梨～です。部落問題に、親子・姉妹で向き合っている人たちの映像でした。

大洲にも何回か来られ、講演会をしていただいたことがあるそうです。「この姉妹2人の生き方は素晴らしい。多くの人は、このような考え方や生き方はできない。」と、視聴後、木元さんが感想を述べられていました。



### 私たちの感想です。

同和問題に向き合う2人の姉妹の話でした。「差別に対して無理に闘うのではなく、しんどかったら逃げてもいいし、かわしていい。」という言葉が心に残りました。これは部落差別だけでなく、他の人権問題に対しても同じことだと思います。誰かを下に見ないと生きていけない人より、彼女たち姉妹の方がより人間らしく、ありのままに生きられていると思いました。



DVDを鑑賞した後は、これから訪れる場所の説明がありました。香川県水平社発祥の地である観音寺の公会堂跡地です。現在は、「老人憩いの家」が建っており、中に入ることはできませんでした。1924年7月に香川県の水平社ができました。その後、愛媛県にも第1号が東温市の拝志村に設立されました。それに尽力した人たちが、松浪彦四郎（まつなみ ひこしろう）と徳永参二（とくなが さんじ）です。彼らは、徳島県や高知県にも水平社ができるために力を尽くしました。2人は四国中を走り回ったわけです。

琴引公園到着後、バスを降り、公会堂跡地付近の観光地である世界のコイン館と大平正芳（おおひら まさよし）記念館を見学しました。大平正芳は香川県が輩出した総理大臣です。安部総理が辞任を発表した翌日ということもあって、少し感慨深いものがありました。

その後、銭形の砂絵を見るために展望台に上がりました。歩く距離は短かったのですが、急な階段で傾斜がきつかったため、へとへとに疲れました。その甲斐あって、展望台に着くと、観音寺市内を見渡す素晴らしい景色を楽しむことができました。





次に向かったのは、「財田川（さいたがわ）事件」の現場、三豊市（みとよし）のJR讃岐財田（さぬきさいた）駅の北にある巖島（いつくしま）神社です。近くまで行き、車窓見学をしながら通過しました。財田川事件は、1950年に起きたえん罪事件です。



えん罪は、やってもないのに罪をかぶせられるということです。当時闇米ブローカーをしていた男性が、全身30カ所を刃物で刺されて殺され、当時の現金で1万4000円を奪われました。隣町で2人組の強盗事件が発生し、捕まった1人が19歳の少年で、闇米ブローカー殺人の犯人として逮捕されました。それから自白を強要されたのです。やってもない罪を認めさせられました。重要証拠として提出された血液の検査が不十分だったのに、死刑が確定してしまいました。死刑囚谷口さんが裁判所に出した手紙を、裁判官の矢野さんが見つけて改めて調べ直しました。しかし、周りの仲間からは止められました。矢野さんは裁判官を辞めて、谷口さんの救済を始めます。



長い時間がかかって、再審が開始されるようになりました。事件から無罪となるまでに、34年かかりました。谷口さんの人生の時間というのは、無駄に失われたわけです。「部落の人だから」という意識を持った上で捜査をしたので、間違っただけになったわけです。



今は、血液型だけで証拠とされることは、かなり少なくなっています。なぜなら、DNA鑑定というのがいるからです。証拠が1つあるだけで完全な証拠とは言えません。現在は、他の証拠もあって間違いがないということになってから、検察も決定していくという時代になっています。それでも、今でもえん罪というのはあります。説明の最後に木元さんが、「えん罪は人権侵害です。最もひどい人権侵害は、人の命を奪うことです。」と言われていたことが、印象に残っています。



昼食は、こんぴらさんの表参道沿いの「中野うどん学校」というところで取りました。ここでも3密を避けるために、座席の間隔を空け静かに食事をしました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、土曜日にもかかわらず、参道には人がまばらで閑散としていました。お土産屋さんもお客さんが少なく、ほとんど貸し切り状態だったので、ゆっくり買い物ことができました。

昼食後は、バスの中で、100年近く前に起こった「福田村事件」について学習しました。福田村事件は、千葉県のリ根川で起こった事件です。その5日前には関東大震災が起こっていて、朝鮮人が襲ってくるというデマが流れていました。当時、青年団や消防団などによる自警団という組織が結成されました。日本人と朝鮮人は区別がつきませんでしたし、中国人と朝鮮人の区別もつきませんでした。そのような状況の中で、香川県から来た薬売り行商人15人が自警団に襲われ、9名が殺されたそうです。香川県では当時、薬草を使って薬にして売りに行っていたのです。9名も殺害したのに、自警団は結局釈放されました。



大正時代に起こった事件が表に出るようになったのは、2003年に香川県で、福田村事件調査会が結成されたからです。香川県の部落の人たちが明らかにしたことです。その年に、事件現場に慰霊碑が建立されました。事件発生から87年も経っていました。当時は、行商人への偏見というのもありました。昔は、よそから来た人には疑いを持って見るという考えがありました。千葉県の田舎と香川県の田舎の言葉は、かなりの違いがあったと思われます。遠くから聞いていると、朝鮮人の言葉と聞き間違えたのではないかと思います。



今も、コロナウイルスのことでみんなに排除の意識があり、それが差別につながっています。私たちが人権意識をしっかり持っていれば、このような差別はなくなると思います。



次に私たちが向かったのは、結婚差別で男女が自殺した多度津町のJR海岸寺（かいがんじ）駅です。1972年、結婚問題で悩む徳島県の男女（19歳同士）が自殺しました。男性側の家族が結婚を許さなかったということで、2人がどれほど悩んでいたか。2人はかけおちをし、列車で地元を離れました。2人は絶望の中、疲れ切っていました。男性は旧国鉄詫間駅前の神社、通称弁天さんで首をつり、女性は旧国鉄海岸寺駅構内の線路上で列車にひかれ即死しました。女性の遺書には、「私の出身が悪いと反対された。」と書かれていました。



徳島県内では大きな社会問題となり、葬儀には県知事も参列しました。NHK徳島放送局は、特別番組「同和問題解決への道・ある心中事件の教訓」を放送するなど、同和教育の取り組みが強化されました。



しかし、未だに同じような差別が起こっています。亡くなった2人のことを考えると、「もう生きていたくない」と思われた社会だったということです。私たちと年齢があまり違わない人たちなので、2人の気持ちを想像してほしいと思います。愛した人と一緒になれないのは、どれほどつらいことでしょう。「出身が悪い。」そんなことがあっていいはずがありません。今私たちが同和教育を学んでいることの意味が、改めて分かりました。

帰りのバスの中でも、人権啓発DVDを鑑賞しました。タイトルは『「いま、ここ」からの出発』です。社会学者として40年以上にわたり部落問題に関わってきた、江嶋修作（えじま しゅうさく）さんのお話でした。部落差別とは何か。なぜ人権教育が必要なのか。基本的・基礎的なことをわかりやすい言葉で語っていました。

#### 私たちの感想です。

見える差別、見えがたい差別、見えない差別、この3つについて話していました。これは差別を受けた人、差別をされた人に寄り添える人にしか分からないものなのかもしれません。だからこそ、私は差別の歴史を学び、差別をなくしていきたいと思います。あったものをなかったことにはできないと言った先生の言葉通り、昔の人の思いをくむためにも、私は差別に対して学ぶ姿勢でいたいと思いました。



#### 今回参加した全員からの感想です。

過去に起こった部落差別のことや、部落差別の現状を知りました。また、現在起きている人権問題についても学ぶことができました。今回の研修を通して、差別をなくしていかなければならないと強く思いました。今回の貴重な体験を、これからの生活に生かしていきたいと思います。（清水）



香川県で実際にあった差別事件などを、一つずつ確認しながら研修しました。話を聞きながら事件が起こった場所に行ったので、すごく心に残りました。貴重な体験ができました。差別は絶対にしてはいけないものだ実感しました。これからも、人権のことについて学んでいきたいと思います（山西）